特集 子どもをのばす3つの提案

教育の原点は、家庭 学びの環境づくりを進めよう

子どもが生まれたときから、家庭での教育が始まります。親も子育てを学習し、子どもの豊かな未来を願っています。子どもを取り巻く社会環境には、大人が手をこまねいていてはいけない課題がたくさんありますが、まずは、家庭を見直してみませんか。教育の原点といわれる家庭が、子どもにとって、本当に学びの環境になっているのかどうか見直しましょう。子どもが自分の未来に夢を持ち、毎日の生活に意欲的に取り組んでいけるよう、学びの環境づくりに取り組みましょう。遅すぎることはありません。気づいたときがスタートなのです。

家族で地域行事に参加しよう

また、地域には、家族で参加できる、魅力あふれる行事がたくさんあります。「GOGO土曜塾」には、そんな情報が満載！

今秋全小学校で実施される「ジュニア京都検定」を目指し、地域で触れることができる京都の伝統文化体験もおすすめです。子どもは学校・家庭・地域の中で育ちます。地域の取組にもどしどし参加しましょう。

「歴史都市・京都から学ぶジュニア日本文化検定（ジュニア京都検定）テキストブック」

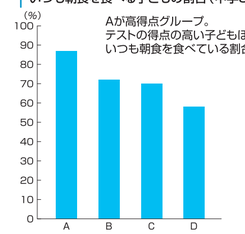
できることからはじめよう！「早寝」「早起き」「朝ごはん」

我々大人が子どもの頃には当たり前だったこんな言葉が、なぜ今、声高に叫ばれるのでしょうか。最近、夜遅くまで起きていたり、朝ご飯を食べずに登校したりする子どもが増えています。こうした子どもの生活習慣は、子どもの生活や家庭学習に大きな影響を与えています。これは、昨年12月に京都市総合教育センター研究課が行った「生活意識調査」の結果にも現れています。

「朝ごはん」は、一日のスタート。元気の源です。早起きをしてゆっくり朝食を摂りましょう。授業が始まる2時間前に起きるのが理想の起床時間といわれています。そのためには、「早寝」がとても大切です。大人の生活リズムに子どもを合わせるのではなく、子どもの生活リズムを大人が守る配慮が必要です。

子どもが健やかに成長し、学力や体力の向上を図るため、早寝早起きや朝食をとるなど、できることから生活習慣を見直してみませんか。

●学校のある日、朝食を食べますか？
いつも朝食を食べる子どもの割合（中学3年生）



※生徒を学力調査の得点別にAから D の4グループに区別して統計したもの。
（小・中学生の学力・生活意識調査／平成17年12月 京都市総合教育センター研究課）

見直そう、家族のあり方、「家族の宿題」のすすめ

子どもにとってもっとも大切な場所、それは家庭ではないでしょうか。子どもは家の人に自分自身をもっとも認めてほしいのです（グラフ参照）。

家庭が子どもにとって心から安心できる場所であることが、子どもに、勉強やスポーツをがんばる意欲を与えます。長い夏休みを控えて、改めて家庭を子どもの眼から見直しませんか。

大人が変わることで子どもが変わります。「家族の宿題」は、大人が子どもの目線に立つことで、子どもにとって安心できる場所、子どもが自分の夢を育み、実現に向けてがんばる意欲を育む場所を作る取組です。子どもが安心して、学習に取り組める学びの環境の基盤づくりは、「家族の宿題」の実践がひとつの大きなヒントです。

できることから始めましょう。明日といわずに、今日から。

開いてみよう、「家庭学習の手引き」

●どうすれば子どもは自分から進んで勉強するようになるの？

●家庭学習って一体どれぐらいの時間すればいいの？

●子どもは、テレビやゲームには一生懸命なのだけれど…宿題をするだけでは、だめなの？

●学校で子どもの年代は、どんなことを勉強しているの？

●家庭学習が大切なことはよくわかる。でも何を、どのように、子どもにやらせればいいの？

こんな疑問を持たれたら「家庭学習の手引き」を開いてください。

疑問に対する大きなヒントが手引きの中にあります。また、学年ごとの子どもの「育ち」や「学び」の特徴を知ることもできます。今までご家庭で困っておられたこと、疑問に思われていたこと、家庭学習のみならず家庭教育全般についての情報が満載です。是非ご活用ください。

●子どもたちには、こんな家庭学習を

	家庭学習の目標	学習時間のめやす
小学1年	基本的な学習習慣を身につける	15～30分
小学2年		30分
小学3年	自ら机に向う姿勢を育てる	45分
小学4年		60分
小学5年	予定を立て、自力で学習を進める	75分
小学6年		90分
中学1,2年	計画的・継続的な学びを進める	2時間
中学3年	自らの進路に向けて努力する「姿勢を育てる」	2～3時間

詳しくは、各家庭配布の「家庭学習の手引き」をご覧ください

家族の宿題

❶子どもの目を見て会話しよう。
❷一緒に家事をしよう。
❸一緒に本を読もう。
❹一緒に出かけよう。
❺立ち止まって、一緒に「答え」を探そう。

●一番ほめてほしいのは「家の人」
あなたががんばったときだれにほめてほしいですか？

(%)

	4年生	6年生
家の人	71.2	59.5
学校の先生や職員の人	3.7	3.5
塾や習い事の先生	2.9	3.6
友だち	8.3	11.8
近所の人	1.0	0.5
特にいない	12.9	21.1

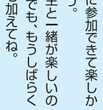
指定都市調査／平成13年10月実施

家族の宿題

我が家の場合

昨年度に募集した「家族の宿題」実践体験談に応募された中から、2家族の実践を紹介します。

親子で一緒に、思い切って参加


待鳳小学校 下坊和美

夏休みがやってきた。地域や学校の行事がたくさん予定されているので、それらをカレンダーに記入するところから始まる。親子で参加するものも多い。そして、実際に親子で参加する。暑さで疲れてくるが、会場で「お母さーん」と呼びかけられると、元気になる。何よりの疲労回復は、その日の夕食で話が弾むこと。

「今日のワイワイ広場のゲーム、どうやったの？」「上手に出来たよ！」

「お母さんの担当していた魔法の石は何なん？」「実はなあ、……」

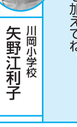
友達や先生と一緒が楽しいのは当たり前で、でも、もうしばらくはそこに親も加えてね。

「なんやそうやったんか」とおりでいい匂いがすると思ったわ」

親子が一緒に参加してこその話で盛り上がっていると、夫も興味深げに話に加わってくる。

大人も参加、協力する行事は、思い切って参加し、楽しむ。そのほうが子どもとの話題が確実に増えていく。「手伝った、しんどかった」ではなく、「しんどかったけど、一緒に参加できて楽しかったわ」という。

夏休み、私の宿題


川岡小学校 矢野江利子

うちの息子は小学3年生。上の娘は、高校3年生。9歳離れており、家の中では母親が2人いるようなものだ。小さい頃から人見知りする子で、私は挨拶は大きい声でと口癖のように言っていた。先日、耳鼻科に行ったとき、息子が一人で診察室に入った。息子は、病状を先生に説明し診察していただいて出てきた。息子がたくさんしゃべっていたのにびっくりしたのは、なぜか、なぜかなぜかなぜかな